

赤ちゃんロボットのベビロイド
＝愛知県東郷町の東郷製作所で



「マンマ」と言ったよ
うだが、はつきり分ら
ない。笑うとほっぺが赤
くなり、声のする方に顔
を向けたり、手を動か
したりするが、ただそれ
だけ。東郷製作所（愛知
県東郷町）と中京大准教授
の加納政芳さんが共同開
発する「ベビロイド」
は、自分では何もできな



加納政芳准教授

い。人間に「世話させる
ロボット」だ。
「お掃除ロボット」の
ようにロボットが身近な
存在になり、福祉の分野

でもさまざまなロボット
が開発、研究されている。
ベビロイドは、二〇〇
八年に一号機が誕生。加
納さんは「世話をしてあ
げよう」と思うことが、
高齢者の生きがいにつな
がると考えた。
体重？二・三キ、身長
四六センチ。あやすと笑い、
機嫌が悪くなると青い発

赤ちゃん、世話で元気に ベビロイド

る。加納さんは「子ども
の情操教育にも生かせる
のでは」と話す。

光ダイオード（LED）
が光って泣くが、反応は
一律ではない。施設の高
齢女性とベビロイドが生
活を共にする実験をした
ところ、沈みがちな気分
が改善されたという。
東郷製作所は一年か
ら開発に参加。外付けだ
ったバッテリーやコンピ
ューターを内蔵にして、
散歩に連れ出すことも可
能になった。さらに実験
をして効果などを確かめ

進化する福祉車両・ロボット